

公益財団法人書壇院  
令和元年度事業報告書

I	公益事業1 書道に関する普及啓蒙活動事業	
1	収蔵品の調査研究と貸出・公開	1頁
2	講演会・ギャラリートーク	2頁
3	展覧会	2頁
II	公益事業2 書道に関する支援・能力開発事業	
1	書道に関する技能能力の審査・認定	3頁
2	書道教育研究誌の頒布	4頁
3	次代を担う指導者の育成	6頁
III	収益事業	
1	不動産賃貸事業	8頁
IV	その他	
1	懇親会等開催	8頁

## I 公益事業 1 書道に関する普及啓蒙活動事業

### 1 収蔵品の調査研究と貸出・公開

#### 1-1 企画維持管理

(1) 書壇院で受け入れた新規購入品及び寄贈品の整理・配架

(2) 苞竹記念文庫の書庫・収蔵品の整理・管理

① 閲覧図書管理（本の破れ等の修理は保留）

② 軸の修理をした。

③ 新収蔵品にバーコードを付け、データ入力をした。

④ 硯の点検・修理は継続中である。

(3) 書壇院ギャラリー展示の実施

① 第110回展（企画展示）三輪田米山・魂の書

—高澤浩一氏コレクション—

② 第111回展（企画展示）本物を見よう

—『書壇』掲載の本院蔵 明・清の書 その1—

③ 第112回展（平常展示）「吉田苞竹展」

#### 1-2 調査研究

(1) 明治以前の日本の書の拓本の調査を継続した。

① 釈文の採録を継続中である。

② 粗読みを継続中である。

(2) 鐘銘拓本の整理研究は保留状態。

#### 1-3 展示事業

(1) 企画展示は以下のとおり実施した。

① 第110回展

三輪田米山・魂の書 —高澤浩一氏コレクション—

会期 令和元年4月4日（木）～6月1日（土）

二松學舎大学教授 高澤浩一先生所蔵の三輪田米山書作品24点（幅18点、屏風3点、写真2点、幟1点）と関連の資料を展示。

② 第111回展

本物を見よう —『書壇』掲載の本院蔵 明・清の書 その1—

会期 令和元年11月12日（火）～令和2年1月26日（日）

『書壇』裏表紙の「書画の鑑賞」に、平成30年2月号から掲載された明・清の書家の作品16点（幅10点、対幅5点、卷子1点）を展示。

(2) 平常展示を実施した。

① 第112回展 「吉田苞竹展」

会期 令和2年2月19日(水)～3月29日(日)

## 2 講演会・ギャラリートーク

### 2-1 講演会

第25回文化講演会を実施した。

演題 「製硯師と旅する硯の世界」

講師 青柳貴史先生(宝研堂 製硯師)

日時 令和元年6月9日(日)

会場 東京国立近代美術館講堂

参加者 131名

会費 1,000円

### 2-2 ギャラリートーク

企画展示開催に付随して以下のとおり実施した。

令和元年4月16日(火)

令和元年5月12日(日)

令和元年11月19日(火)

令和2年1月17日(金)

## 3 展覧会

(1) 第12回 「書壇院 日本文の書」展

会期 I 令和元年6月12日(水)～6月23日(日)

II 令和元年6月26日(水)～7月7日(日)

III 令和元年7月10日(水)～7月21日(日)

会場 書壇院ギャラリー

出品者 書壇院展審査会員

I…40名 II…38名 III…39名 計117名

(2) 第12回 「書壇院展院友 日本文の書」展

会期 I 令和元年8月28日(水)～9月8日(日)

II 令和元年9月11日(水)～9月23日(月・祝日)

III 令和元年9月26日(木)～10月6日(日)

会場 書壇院ギャラリー

出品者 書壇院展院友

I…32名 II…31名 III…31名 計94名

(3) 第86回書壇院展

会期 令和元年12月5日(木)～12月11日(水)

会場 東京都美術館(東京・上野公園)

出品者

全国公募による出品者 526名

審査会員 203名

院友 170名

計 899名

(4) 第86回書壇院学生展

会期 令和元年12月5日(木)～12月11日(水)

会場 東京都美術館(東京・上野公園)

出品者

全国公募による小学生 559名

全国公募による中学生 163名

全国公募による高校生 62名

計 784名

(5) 第59回書壇院竹心展

会期 令和2年3月24日(火)～3月29日(日)

会場 セントラルミュージアム銀座(紙パルプ会館5F)

出品者

書壇院審査会員 151名

書壇院展院友(特別選抜者) 10名

計 161名

II 公益事業2 書道に関する支援・能力開発事業

1 書道に関する技能能力の審査・認定

各昇位試験及び書道・南画教授認定試験を実施した。

(1) 『書壇』漢字・かな・南画昇位試験

締切 令和元年6月7日(金) 受験者11人 各位合格者10人

(2) 『書壇』玄位・妙位・雪位試験

締切 令和元年8月7日(水) 受験者85人 各位合格者57人

(3) 書道・南画教授認定試験

締切 令和元年9月6日(金) 無受験者4人 受験者1人 認定者5人

(4) 『書壇』日本文部昇位試験

締切 令和元年11月7日(木) 受験者55人 合格者21人

(5) 『書壇』上位・極位・雅位試験

締切 令和2年3月6日(金) 受験者180人

※合格発表は6月以降に延期。

2 書道教育研究誌の頒布

2-1 書道教育研究誌である月刊『書壇』及び月刊『学生書壇』の刊行について

(1) 書壇院は、公益財団法人としての理念を体し次の諸事項を行った。

- 『書壇』・『学生書壇』の誌代を次のようにした。

『書壇』 1部 700円(送料・消費税込)

『学生書壇』 1部 400円(送料・消費税込)

- 『書壇』購読者は、漢字・かな・南画・日本文・篆刻のすべての部門の出品を無料とした。

- 『学生書壇』購読者は、漢字・かな・硬筆すべての部門の出品を無料とした。

- 『書壇』協力員、『学生書壇』協力員の設定

過去1年間(4月号～3月号)に購読又は取扱った冊数がある一定以上に達した指導者(あるいは取扱い責任者)を協力員として姓号(氏名)を誌上に発表し、協力を讃えた。

(2) 『書壇』について

- ① 月例掲載記事は平成30年度に準じて行った。

- ② 表紙は書壇院蔵の「南画」とし、裏表紙は、書壇院蔵の作品に解説を添えて載せた。

- ③ 「同人参考手本」

条幅・半紙共、読者の競書出品の参考となるようにした。

また、2尺×6尺・3尺×4尺の参考手本は、書壇院展・毎日書道展への取り組みを身近なものとし、制作意欲を刺激し、出品数の増加を図る目的で掲載した。(漢字・かな・日本文)

- ④ 「漢字規定」

上位・準上位の課題は引き続き唐詩を、玄位～六位及び新規は五言句の参考手本を掲載した。小字の課題は引き続き古典と近藤秋篁書の

臨書を取り入れた。

⑤「かな規定」

極位・準極位は和歌又は俳句を、妙位～6位及び新規は参考手本を掲載した。

⑥「南画規定」

南画初学講座として参考手本と解説を載せた。

⑦「漢字臨書規定」

古典研究として読者の作品制作の糧となるような古典を選び、参考手本（条幅・半紙）と解説を載せた。

⑧「かな臨書規定」

極位～2位は古典の臨書とし、3位～6位はその中の一部分を参考手本として載せた。

⑨「日本文の書」

参考手本（半紙規定・条幅規定）を掲載し、規定と随意を募集した。

⑩「篆刻入門」

参考手本を掲載し、規定と随意を募集した。

⑪ 随時掲載記事

「私の好きな古典」、「展覧会案内」、「展覧会報告」、「書壇院日記」その他。

⑫「審査会員遊苑」

審査会員を対象に毎月課題を設定し、作品制作をすることで書の技倆の向上に資するようにした。（漢字・かな・日本文）

⑬ 表具店、文房四宝店等の広告をなるべく多く掲載し、購読者への情報提供の拡大を図った。

⑭ 毎月の出品票の下にその月の清書締切日時を明記し、遅着のないよう注意を喚起した。

〔3〕『学生書壇』について

① 月例掲載記事は平成30年度に準じて行った。

② 表紙は泗水昇鼎図より取りあげた。

③ 表紙裏に吉田苞竹の書作品を載せた。

④「鑑賞作品」は古典の一部を大きく掲載し、やさしい解説を添えた。

⑤ 掲載手本

「毛筆部」 幼児、小1、小2、小3、小4、小5、小6、中1、  
中2、中3、高校（11種）

「かな部」 かな中学、かな高校 (2種)

「硬筆部」 幼児、小1、小2、小3、小4、小5、小6、  
中学・高校 (8種)

⑥「特待生紹介」は従来どおり掲載した。

⑦ 毎月の出品票の下にその月の清書締切日時を明記し、遅着のないように注意を喚起した。

## 2-2 『書壇』『学生書壇』年間発行部数について

両誌に今後も改善を加え、魅力ある教育研究誌となるよう一層努力した。  
令和元年度の売上部数は以下のとおりである。

『書壇』年間売上部数 28,986部 対計画比 3,014部減

『学生書壇』年間売上部数 30,692部 対計画比 308部減

## 3 次代を担う指導者の育成事業

### 3-1 書道教室の継続実施

書道教室(漢字・かな・水墨画(南画))を月2回(原則として  
第2週・第4週)書壇院ホールにおいて継続実施した。

書道教室(漢字) 水曜日・金曜日

書道教室(かな) 火曜日・土曜日

書道教室(水墨画(南画)) 土曜日

書道教室(子ども) 水曜日・木曜日・金曜日・日曜日

### 3-2 書道講習会の開催

書道講習会を年4回(日本文、かな、篆刻、水墨画(南画)各1回)実施した。

#### (1) 日本文

実施日 令和元年6月29日(土)

講師 家田朱蓬先生(書壇院展日本文部審査会員)

会場 書壇院ホール

参加費 2,000円

参加者 22名

#### (2) 水墨画(南画)

実施日 令和元年10月5日(土)

講師 岩崎桂花先生(書壇院展南画部審査会員)

会場 書壇院ホール

参加費 2,000円

参加者 11名

### (3) 篆刻

実施日 令和元年10月20日(日)  
講師 鈴木青雨先生(書壇院展漢字部審査会員)  
会場 書壇院ホール  
参加費 3,000円(印材を含む)  
参加者 12名

### (4) かな

実施日 令和2年2月15日(土)  
講師 平井侘子先生(書壇院展かな部審査会員)  
会場 書壇院ホール  
参加費 2,000円  
参加者 22名

### 3-3 書初め会の継続実施

実施日 令和2年1月5日(日)  
会場 書壇院ホール、書壇院前広場  
内容 ○大作揮毫パフォーマンス(3名)  
○参加者による書初め体験  
○パフォーマンス作品は書壇院ホールに展示  
参加者 約80名

### 3-4 「若竹」活動の一層の活発化

#### ① 若竹交流会

第1回 実施日 令和元年8月11日(日・祝日)  
内容 ○若竹作品発表会のギャラリー見学  
○書壇院収蔵の拓本での臨書研究  
参加者 11名

第2回 実施日 令和元年12月8日(日)  
会場 第86回書壇院展会場(東京都美術館)  
内容 書壇院展に出品した自分の作品の紹介と、指導者や参加者による作品批評。  
参加者 約20名

#### ② 第5回若竹作品発表会

実施日 令和元年8月6日(火)～8月25日(日)  
会場 書壇院ギャラリー  
内容 半紙サイズ以内の作品。



出品数 248点

発表会終了後は、作品をインターネット展として書壇院ホームページの若竹広場に掲載した。

### 3-5 他団体の育成事業への指導協力・支援

- ① 鶴岡市立朝暘第二小学校（吉田苞竹の母校）の書初め会への支援を行った。
- ② 毎日書道展への出品に協力した。
- ③ 高野山競書大会への出品に協力した。
- ④ 国際高校生選抜書展への出品に協力した。

## III 収益事業

### 1 不動産賃貸事業

#### 1-1 事務所床賃貸事業

賃貸人公益財団法人書壇院と賃借人森ビル株式会社が契約締結した「建物賃貸借契約書」に基づき、本院が所有する事務所（港区六本木1-9-10 アークヒルズ仙石山森タワー27階の一部）床面積 843.13 m<sup>2</sup>を賃貸した。

#### 1-2 書壇院ギャラリー・書壇院ホール賃貸事業

公益財団法人書壇院「書壇院ギャラリー」「書壇院ホール」借用規程に基づき、賃貸事業を実施した。

実績 書壇院ホールB（午後）13回

## IV その他

### 1 懇親会等開催

展覧会・講演会実施に付随して懇親会等を開催した。

- |                   |     |     |
|-------------------|-----|-----|
| ① 「第25回文化講演会」懇親会  | 参加者 | 31名 |
| ② 「第86回記念書壇院展」親睦会 | 参加者 | 78名 |
| ③ 「第59回書壇院竹心展」懇親会 | 中止  |     |

## 事業報告の附属明細書

- 1 重要な事項はすべて事業報告に記載した。